



3月から本格稼働を始めた有明ひまわりセンター



市民文化会館で初めて開催された総合美術展



令和4年度 金子市長の

所信表明



所信表明全文



4月9日にオープンする地域子育て支援拠点施設「このゆびとまれ」



全国2位の生産量を誇るノリ養殖



幅広い世代で接種が進む新型コロナワクチン

柳川の持つ魅力をさらに高め 未来を担う次の世代につなげていく

金子健次市長は2月28日、令和4年第3回柳川市議会定例会で、令和4年度の市政運営に臨む所信を述べました。内容を要約して紹介します。

感染力が強いオミクロン株に置き換わった新型コロナウイルスによって、経験したことがない速さで陽性者が増加しています。市内でも学級閉鎖や保育園の休園などによって、保護者や医療への負担が高まっています。感染拡大を防ぐため、医師会の協力を得て、当初の予定を早めて、2月1日から3回目のワクチン接種を開始しました。今後も、希望する人が、スムーズに接種できるように、あらゆる努力をしていきます。

みやま市と共同で整備した新ごみ焼却施設「有明ひまわりセンター」が、3月1日から本格稼働を始めました。建設費約12.1億円のうち、国の補助金などを除いた約85億円は、両市で負担します。負

担割合は、3月からの1年間で両市から出される可燃ごみの割合で決まります。市民の皆様のご協力により、柳川市の可燃ごみの量は対前年比で約9%減少しています。引き続き、ご協力をお願いします。

昨年8月11日から1週間降り続いた雨は、平年の年間降水量の半分に相当する870ミリを記録しました。先行排水や排水機場の管理人の皆様のご協力によって、近隣自治体に比べ被害を抑えることができましたが、田畑や水路、道路には、つめ痕が残りました。いっどこで起こるか分からないのが災害です。今後も、排水機能や情報発信の強化など、災害に強いまちづくりに取り組んでいきます。

それでは、私の施策の一端を述べさせていただきます。

柳川の子育てや暮らしに幸せを感じる「人づくり」

若い世代が、柳川での子

▽掘割を活用した持続可能な観光のあり方検討▽防犯カメラを設置する行政区などへの補助▽市役所柳川庁舎に防犯カメラ設置▽出張申請窓口の開設などマイナンバーカードの普及促進▽過疎債を活用した事業の実施

柳川の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つ「ふるさとづくり」

自慢したくなるふるさとづくりへ向けて、地域資源への誇りやこだわり、郷土愛とおもてなしの心の醸成を進めます。また、「福岡県美しいまちづくり建築賞」の大賞を受賞した市民文化会館を拠点に、柳川らしさを重視した文化芸術活動を推進します。

●主な事業

▽初代柳川藩主「立花宗茂」と妻「閻千代」を主人公としたNHK大河ドラマ招致活動の継続▽市民文化会館

育てや暮らしに幸せを感じられるように、子育て支援拠点施設での事業の充実や小中学校の再編に取り組みます。

●主な事業

【子育て】▽新たな子育て支援拠点施設を中心とした子育て支援の拡充▽保育士の処遇改善▽ICT化による保育士の業務負担軽減▽むろごろうランドなどの公園整備【学校教育】▽学校再編計画の策定

水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつける「まちづくり」

柳川の特徴を活かして、住む人にとっても訪れる人にとっても魅力的なまちづくりを目指します。また、可燃ごみの減量化をさらに進め、新ごみ焼却施設の建設費や維持管理費の市民負担を減らします。

●主な事業

を文化芸術の拠点とした文化芸術振興計画の策定▽パソコンやタブレットを借りることができる「電子図書館」の運営

柳川の地域資源や産物を誇れる「しごとづくり」

農漁業は、柳川の基幹産業です。農漁業の振興を図るため、農産物を使った特産品づくりや、柳川産海苔のブランド化などに引き続き取り組めます。また、商業と観光業関連のV字回復施策をコロナの収束を見据え、関係団体の意向を踏まえながら実施していきます。

●主な事業

▽新規作物や農産物特産品の開発▽博多和牛ブランドや柳川産海苔のブランド化▽柳川の豊かな農地と有明海などの基盤整備▽商業・観光業関連のV字回復施策の実施